



医師

## 当院の分娩の現状と4Dエコー外来開設、 子宮頸がん検診と腹腔鏡下手術の今後について

産婦人科部長 藤原 多子

昨年は当院の分娩予約を一時縮小し、皆様には多大なご迷惑をおかけ致しましたが、現状は分娩を再開させていただいております。厚生労働省が作成した出産に伴う合併症を予測する妊娠リスクスコアをもとにして低～中リスク妊娠に該当する方を分娩予約させていただいております。当院にはNICU(新生児集中治療室)がありませんので、妊娠35週未満の早産となった場合は高次医療施設と連携し迅速に対応いたします。

今年から待望の「4Dエコー外来」を新設いたしました。妊娠中の胎児エコー画像の精度は年々飛躍的に向上しています。お母さんのお腹の中にいる児の表情や動きなどを4D画像で確認することで、児の成長を実感し妊婦の母性形成に役立つと言われております。本年1月より完全予約制かつ自費診療で4Dエコー外来を開設し予約をお受けしております。妊娠週数により見え方も変わりますので、胎

児の表情がよく見える時期や条件にご興味がある方は産婦人科外来にぜひお問い合わせ下さい。

近年20～30代における子宮頸がんの罹患率が増加しています。妊娠・出産にも関わる問題であり、20歳からの子宮頸がん検診が勧められています。検診で異常が見つかった場合には子宮頸がん検診の精密検査(二次検査)が必要になります。コルポスコピー検査は病変部を拡大鏡で観察することで診断精度を上げ、適切な治療を選択する事が可能になるため、産科婦人科診療ガイドラインでも強く推奨されております。検診で二次検診が必要となった場合には産婦人科外来にお問い合わせいただき、コルポ外来をご予約下さい。

腹腔鏡下手術で手術可能な婦人科疾患は近年の医療機器・医療技術の進歩により大幅に適応が拡大しています。当院においても手術件数は年々増加し、入院期間が短く、痛みなども少なく傷も小さいため、患者様より高評価をいただいております。婦人科疾患で手術が必要な患者様および術式についてご希望がある方は外来にて担当医にご質問下さい。



⇔最新鋭のエコー装置と4D画像

